

子規と草花

命の輝き

令和元年8月3日(土)～9月9日(月)

休館日 8月6日・20日・27日、9月3日(いずれも火曜日)

開館時間 午前9時～午後6時(展示室入場は午後5時30分まで)

会場 松山市立子規記念博物館 3階特別展示室

観覧料 個人400円 団体320円 65歳以上200円 小中高校生無料

記念講演

演題：「俳句と植物」

講師：宇多 喜代子氏(俳人、現代俳句協会特別顧問)

日時：8月24日(土) 午後2時～3時30分

会場：1階視聴覚室 ※入場無料、定員約90名

学芸員によるギャラリートーク・関連講座

《ギャラリートーク》

日時：8月11日(日・祝)、8月25日(日)ともに午前10時30分より50分程度

会場：3階特別展示室 ※聴講には特別企画展の観覧券が必要

《関連講座》

特別企画展の見どころや背景などを担当学芸員が分かりやすく解説します。

日時：9月8日(日) 午前10時30分～11時30分

会場：1階視聴覚室 ※入場無料

松山市立子規記念博物館

Tel 089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園1-30

施設運営・管理/株式会社レスパスコレーション <http://sikihaku.lesp.co.jp/>

子規と草花

命の輝き

「花は我が世界にして、草花は我が命なり」という言葉を残した子規。子規は幼い頃から草花を愛し、晩年も東京根岸の子規庵の庭で様々な草花を栽培し、植物の世界に親しみました。

子規が自宅の庭の草花に本格的に関心を寄せるようになったのは、明治29年、難病・脊椎カリエスの進行のため自由な外出が難しくなった頃のことでした。最初はほとんど何もなかった子規庵の庭に様々な植物が植えられ、ヤマブキやバラ、ハギ、ススキ、ケイトウなど、四季折々に美しくまた興味深い姿を見せる草花は、子規の目を大いに楽しませました。のち病床に伏す子規の視界に合わせるように、明治33年には病室の前に大鳥籠が、その翌年にはへちま棚も設けられたこの庭は、歩行の自由を失っていた子規にとって、まさに小さな宇宙でした。

また庭や病床を彩った草花は、子規にとって俳句や短歌、新体詩といった文学活動の大切な糧となり、さらに晩年の子規が何よりの楽しみとした写生画の題材にもなりました。外出して多くのものを見聞することが叶わなかった子規は、身近な草花を手にとりて見つめ、その美しさを写生し表現することで、旺盛な探求心を満たそうとします。特に死期の迫った明治35年頃、子規は麻痺剤の助けを借りながら、草花を見つめ、写生画を1枚、また1枚と描き上げることで、最後の命をつないでいきました。

今回の特別企画展では、子規と草花の関わりを物語る資料や、植物を題材とした子規の俳句、短歌、新体詩や写生画の作品などを展示し、大の草花好きであった子規の新たな素顔を紹介します。

観覧料：個人 400円 団体 320円 65歳以上 200円 小中高高校生 無料
特典／常設展とセットで特別企画展の観覧券を購入する場合、特別企画展の観覧料は2割引、子規博友の会会員が特別企画展の観覧券を購入する場合、特別企画展の観覧料は2割引

学芸員によるギャラリートーク・関連講座

「ギャラリートーク」

日時：8月11日(日・祝)、8月25日(日)

ともに午前10時30分より50分程度

会場：3階特別展示室 ※聴講には特別企画展の観覧券が必要

「関連講座」

日時：9月8日(日) 午前10時30分～11時30分

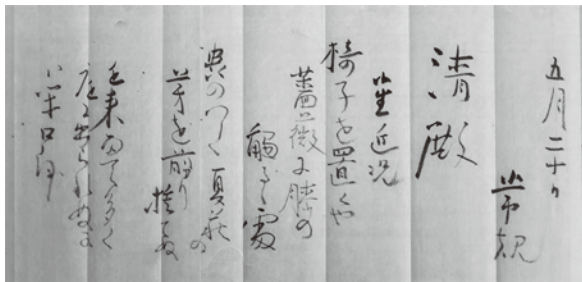
会場：1階視聴覚室 ※入場無料



子規画「草花図」



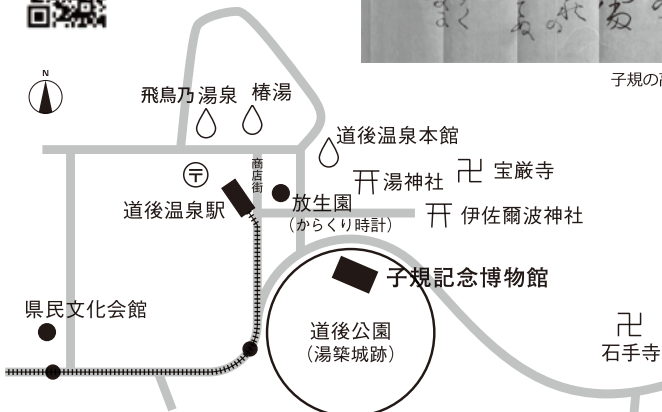
子規画「菜の花」図 (松本市美術館所蔵)



子規の高浜虚子あて書簡 明治31年5月20日 (虚子記念文学館所蔵)



子規画「雪ノ下」
※平成30年度新収蔵・初展示資料



道後温泉駅より徒歩約5分／道後公園駅より徒歩約5分
※公共の交通機関をなるべくご利用ください